

## 教育課題検討委員会 第10回 議事概要（公開用）

平成30年1月30日(火)19:00～21:00

町総合福祉センター3階集会室

出席者： 検討委員全員出席、事務局

（課長補佐）

ただいまより、第10回教育課題検討委員会を開催したいと思います。はじめに、教育長よりご挨拶申し上げます。

（教育長）

今回が第10回ということで、検討委員会も最終段階に近づいてまいりました。

前回、第9回の教育課題検討委員会の要約ということで、どんなことを前回、話されたかということをもとめたいと思います。審議の議題としては、アンケート調査結果分析の報告、検討委員会の答申の素案、その他ということでした。アンケート調査については、混乱などもなく、質問などもなかったということでした。それと、アンケート結果の報告書本文への反映の仕方については、都合の良いところばかりを切り取っているのではないかという批判を受けないように、公正に反映するようという指摘がありました。また、アンケート結果の校正で、ページを見開きにするなど、わかりやすくしてはどうかという意見もありました。アンケート結果の情報についてどうするかということで、開示については、ホームページ等で行うとともに、紙面でも工夫して開示したらいいのではないかという意見もありました。検討委員会の答申に、幼稚園の専門性を持った職員の配置についてを、加えていくということが大切だということ、新たな幼稚園や学校の場所が明らかに特定できるような表現は避けたほうが良いという意見もありました。場所についてですが、この検討委員会で決定するのではないという説明がありました。また、地域コミュニティのバランスの取れた配置という点で、校区の変更やコミュニティの分断を避けるということが文面の中でその意図が反映されているから良いのではないかという話もありました。その他では、副題については少子化という言葉が入った方が良いであるとか、漢字の多度津ではなく、ひらがなのたどつが好ましい、また、最後に保護者の方々、地域の方々にもこの検討委員会の経緯とか、結果が良く見える形で、最終的な答申が出るほうがよいのではないかという意見もありました。

以上が、前回の検討委員会で検討された内容、または意見の集約ということであり、9回目の要約をお話させてもらい、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（課長補佐）

それでは、教育課題検討委員会 会長に司会をお願いしたいと思います。

(会長)

承知いたしました。本当に寒い中、足をお運びいただきましてありがとうございます。いよいよ、大詰めに参りましたこの検討委員会ですが、前回に引続き、教育課題について、検討を進めていきたいと思いますが、まずは、いつものように議事録の要約について確認をしていただければと思います。机上に配付されてありますので、時間を取らせていただきます。なお、私のほうからですが、日付が間違っておられると思いますので、訂正をお願いしておきます。

では、いかがでしたでしょうか。

■ 一部修正すべき箇所の指摘があり、議事概要の修正を行った。

それでは、また後ほどお気づきの点もあれば、事務局まで、直接おっしゃっていただければと思います。

それでは、議題に入って参りたいと思います。今回は、1番として、報告書案の最終検討について、2番に副題の検討、そして、その他となります。まず、議題1 報告書案の最終検討についてでございます。前回と同様に最初に全体的な構成、内容について、また提言部分についての変更部分も確認をいただきます。最初に全体的な構成について、前回の討議を踏まえ、改善した点や加えた点を中心にご説明をいただきます。

■ 事務局説明

(会長)

ありがとうございます。まずは、数値の表記の部分から検討したいと思います。3ページが幼稚園、15ページが小学校の該当箇所、類似市町との幼稚園数、学校数の比較になっていますが、小学校のほうは3.6と小数点第一位に、すでになっていますけども、さて、ここをどうしましょうかという点です。ご意見いかがですが。

(委員)

単純な数字にすると、単純に割れてしまうのではないかと考えられて、整数で表示されているものを割って、なぜ小数点以下が出るのという疑問が出てくるので、そのあたりはやはり、小数点はいくつまで出すとか、約という言葉をつけるとかは必要でないかなという気がしますね。

(速水会長)

他の方はいかがでしょうか。整数値のままで良いという方は、逆にいらっしゃいますか。事務局としても、これはどうかというお考えで、この点を説明に挙げられていたと思います。

(委員)

整数値が良いと思います。わかりやすいことはわかりやすいですよ、幼稚園の箇所を見て、2に近いから2とする、1に近いから1にするというのは、直感的にわかりやすいと思います。小学校は3.6という数値は、4にしてしまうと、多度津町の現状と類似市町が全く一緒になってしまうので、本文の内容と一致しなくなります。

(委員)

そのあたりも整合性というか、この横に出てきている数字は、小数点第3位まで出ていますよね。そういうあたりを、単純に私もこれを見ながら計算してみたら、あれ?と思うところがあったので。

(会長)

3.6という数字をここで使っているの、それに合わせてはどうでしょう。小数点以下第1位までなら。

(委員)

答えが、2.2042・・・というのを知っていれば、2に近いから2と表記することなのですけど、一般の方が見られると、2を超えて2に近いのか、2を超えないが2に近いのかというところもわからないので、やっぱり小数点を書いた方が、一方は3.6と小数点を使いながら、もう一方は小数点以下があるのに使わないということは、ちょっと統一が取れないですね。

(会長)

まあ、小数点2位や3位までは必要ないと思いますね。

(委員)

そこは、四捨五入で構わないと思います。

(教育長)

基本的には、同じ表の中で小数点第何位まで出すのであれば、全部の数字が統一して出さないとはいけませんか。

(委員)

こっちは整数で、こっちは小数点以下までであるというのは、ちょっといかがかと思  
います。

(委員)

そうですね。ただ、多度津町の現状は整数しかないので、4園を4.0とか表記す  
る必要はないと思います。

(会長)

そうしますと、幼稚園の方は、類似市町の現状が2.2。将来構想は、0.992  
ですと、1.0で良いですかね。小学校は、現状の3.6がそのまま、将来構想のほ  
うが1.8ですね。

その他、ご説明がありましたところで、どの箇所でも、お気づきの点をおっしゃっ  
ていただければと思います。

(委員)

4ページ 幼稚園の小規模化のところで、2段落目に「現状では、それを補うため  
に、地域の人材や保護者の関わる機会を増やそうとしている」とありますが、確かに、  
そういったことはしています。ただ、園の大小に関わらず、多様な人材を活用する  
か、そういうことは言われていることであって、小さい園だから園児同士の関わりが  
少ないからということもありますが、これをここで書いてしまうと、このためにして  
いることのような印象になってしまうのではないかなと思います。これを、入れるこ  
とがどうなのかなという気はしています。

(会長)

委員のご意見ですが、「現状から・・・」というこの一文を削除してはどうかとい  
うことでよろしかったでしょうか。

(委員)

すごく最近、特に言われていることであつた、どこの園でも、積極的に取り組んで  
いることですので、これを入れることで、どう読まれるのかなという気はしました。

(教育長)

園児数が少ないところは、体験が不足していると決めつけられるというか、その部  
分を工夫してもらっているということを本文に反映させた方が良いかなということ  
があつただけ、確かに委員が言うように、どの園でもされていると思います。

(委員)

それを「大切にしている」であれば、まだ良いのですが、「補うために」となると、「少人数であるがために」しているのではないと思うのです。保護者や地域との関わりという体験が必要であるから、していることであって、「少ないから」という部分を強調されてしまうと、本来の活動の目的と違って取られてしまうのではないかな、と。

(委員)

友達関係が多くても、地域との関わりは持たなくてはいけないということなので、「補っている」という言い方がどうなのかということを意見されているのではないのでしょうか。

(教育長)

そこを除いた場合はどうですか。「補うために」という言葉を。

(委員)

「現状では」というのも、除けたほうが良いですね。そうなると、文章がつながらなくなりますね。

(会長)

削除してしまうということも、方法としてはありますね。

(委員)

「現状では」以下を削除するということで、どうでしょうか。幼稚園の小規模化の課題を書いている部分なので、なくても意味が通じることは通じる。

(会長)

親御さんやら地域の方が協力していただいているというのはどの園も変わりませんから、はずしても良いとは思いますが。

(委員)

ここに何か、小規模のところだけの傾向を入れないといけないなら、言葉を変えろとか。ややこしくなるでしょうか。

(会長)

保護者や地域と関わりは、積極的にやられていることであるという意見を踏まえて、残すのか、削るのかを事務局に再度、考案していただこうと思います。

(委員)

子どもたちが少人数になっているという部分と、切り離して表現を残していった方が良いのではないかと思います。

(会長)

その他は、いかがでしょうか。では、ここから、ページ順にいてもよろしいでしょうか。

(委員)

すみません。10ページで、「園児たちがこれまでの幼稚園になかった体験をさせる」というのは、少しおかしいので「する」と直し、その下の「特に若い教職員の資質向上に適した環境に・・・」とされているのですが、もちろん、そのとおりなのですが、教職員の資質向上は全体的なことなので。今、多度津町では、特に若い先生が多い現状で、そう書いてくれているのだと思うのですが、それがあったほうが良いのかどうなのかということは思いました。

(会長)

前段の部分は、そのとおりだと思いますので、よろしいかと思います。後半の「若い教職員」というのを除くべきだというご意見に対しては、そのように直しても構わないでしょうか。はい、では訂正とさせていただきます。

他には、いかがでしょうか。25ページは、どうでしょうか。2校間の切磋琢磨の事例として、水泳記録会という行事が例として上がっていますが、こういうものは、他にもありますか。

(委員)

町内で、となると水泳記録会だけですね。陸上記録会は、仲多度郡・善通寺市で行います。その後、県大会ですから、町内で切磋琢磨となると、これしかない。

(会長)

現状の例ということですね。

(委員)

切磋琢磨で、学力という部分を出してくるのは良くないでしょうか。

(委員)

それに限らず、お互い、良くなるよう競い合うということは言えますよね。水泳記録会は、同じ場所で同じ時間でやるということで、例えば、空間と時間が違ったとし

でも、運動会とか学習発表会は成功させようとかいう雰囲気になりますので。

(教育長)

例えば、他には、文化祭も学校ごとに作品が出されるから、そういうところも比較して頑張ったりするとかはある。

(会長)

「小学校対抗で」というのは、どうですか。お互いに磨きあう、切磋琢磨するという言葉は良いかもしれない。でも、対抗というと、お互いが歯向かいあうというイメージになってしまわないかという気がします。

(教育長)

競うということが正しいかな。

(会長)

1校にしてしまうよりは、2校残す方が良いのではないかという部分の中の表現ですが、皆さまいかがでしょうか。

(委員)

これを入れるかどうかということですが、2校が良いという結論になった主たる理由は、人数規模ですよ。2校あれば、こういう良い効果も期待できますよ、というだけのところですね。

(委員)

対抗というのが、少し気にかかりますね。「町内の小学校で行う行事等では2校間で・・・」でも構わんのでしょうね。

(教育長)

さっき、委員が言われたように、学力という点も意識される場所だろうとは思いますが。

(委員)

しかし、ここで書きにくい内容ではないですか。

(委員)

ちょっと、意識の違いなのかもしれないのですが、私たちの中では、水泳記録会が町内の小学校対抗行事というイメージはなくて。こう読んでみると「あれって対抗

だったのかな」と、少し思ってしまった。

(会長)

順位をつけてはないのですか。団体種目とか。

(委員)

個々の記録を競っている大会ですね。

(教育長)

ただ、私も観戦していると、子どもたちは自分の学校の選手を応援していますよね。そこで、盛り上がっているなと思います。

(委員)

ただ、運動会のように、各種目で点数を加算して行って、どちらの学校が勝ったかということを決める大会ではない。そういうのは対抗と言うのだろうけど、記録会が対抗なのかどうか、記録を競うだけなので。学校同士の意識はあると思いますが、点数を足して行って、どこの学校が勝ったとかいうことにはしていない。そういう意味では対抗という言葉はいらわないのじゃないですか。

(会長)

そうしますと、水泳記録会を残すとしたら、「水泳記録会のような行事等では、2校間で切磋琢磨できる環境の継続も期待できる」というのは。

(委員)

それで良いと思います。

(会長)

他に、ありますでしょうか。

(委員)

26ページの「この適正配置をいつまでに実現させるのか、(中略)2つの推移から検討した。」とありますが、「検討した。」と切るのではなくて、「検討したところ」とつないではどうですか。

(委員)

その方がよくわかると思います。ただ、検討した要素が施設の関係と児童数の関係の2つ、その結果として、白方小学校の児童数があり、多度津小学校の児童数の件

がある。そして、白方小学校の校舎の件が出てくる。だから、「検討した。」以降が、残りのこれらの結果につながって前提となっているので、こう書かざるを得ないのかなと思います。

(会長)

それでは、「以下のとおり検討した。」という言葉にして、番号でも振って列挙すればわかり易いですよね。①、②、③とか。

(委員)

「検討した。」以降を改行して、児童数の検討箇所、施設の検討箇所としたほうが良いですね。10ページの幼稚園も同じような書き方になりますね。

(会長)

ここは検討結果を述べていますから、「以下のように検討した。」ということで、記号を打って列挙する、と。よろしいでしょうか。

33ページからの資料編は、どうでしょうか。各グラフデータの下に、見解がまとめられています。ここまでの章で、現状、課題、提言までが全て「である調」に対し、資料編のアンケート結果だけが「ですます調」になっています。さらに、ここでも最後の42ページだけが、「である調」になっていますので、私個人としては、この章については「ですます調」に統一した方がよいのではないかと思います。

町民の皆さまにお答えいただいたアンケート結果をグラフで示し、その下の見解は検討委員会からの言葉になりますよね。いただいた意見に対するまとめを、こちらがしているということで、「ですます」のほうが、やさしい感じになりますので、この部分は、やさしい感じで読んでいただく方がよいのかなという気がしています。

いかがでしょうか。では、「ですます調」統一したいと思います。

それでは、他にないようでしたら、提言部分の説明をいただきたいと思います。

## ■ 事務局説明

(会長)

はい。それではまず、それぞれの項目の提言を「望ましい」と言うべきか「すべきである」と言うべきかについてですが、いかがでしょうか。

(委員)

あるべき姿や、適正規模を保つための適正配置についての提言は、検討委員会として「すべきである」が良いと思います。実際の実現できる時期については、お金の話や用地の話、そういうことがあるので「すべきである」と言うふうに表現にして、そ

れがその時期までにできなければ、検討委員会の答申に反したというふうにはならないでしょうか。そこは、答申を受ける立場で考えると「望ましい」と言うふうに表示していただくと、良いのかなと思います。「1園にする」という適正配置については、実現する方向でやらなくてはいけないと思いますので、「すべきである」として、「平成32年度に開園」というのは、「すべきである」とされると、32年度にできなければどうする、ということが考えられますので、少し厳しいのかなと思っています。

(会長)

他にご意見はいかがですか。

(委員)

「すべきである」だったら、できるのだろーと思われてしまいますよね。「望ましい」にしたほうが良いかもしれない。

(会長)

「望ましい」と言う表現に変えるということにしていきたいと思います。では、全体の表現を確認していきたいと思います。開園目標については、「望ましい」ということで、小学校の開校目標は、「開校の目標として準備されたい」から「開校の目標とすることが望ましい」ということになるかと思います。

(委員)

小学校の提言②と③ですが、タイトルが「検討する必要がある」となっているのに、本文が「すべきである」となっているので、これは「必要がある」という表現に、本文を直したほうが良いと思います。適正配置とかあるべき姿については、この検討委員会の強い考えをお示して、それ以外は「必要がある」とか「望ましい」で良いのかなと思います。

(会長)

ご意見がありました。よろしいでしょうか。では、そのように直したいと思います。他には、ございますか。

(委員)

③の小学校の再編後の提言で、「小学校として使用しない既存の学校用地を(中略)学童保育の受け皿として」とありますが、新しい学校がどこに建つかは別にして、その新しい学校から廃校の場所へ、そこで放課後児童クラブがあるから、そこまで帰るというのは、距離がどの程度あるのかとか、子どもにとっては厳しいのではないです

か。学童保育は大事だと思いますけど、その場所を使ってというのは、どうなのでしょう。か。

(委員)

この表現ではわかりにくいのですが、最初に「新たに整備する学校や、(中略)小学校として使用しない既存の学校用地において」ということで、整備位置は色々なパターンが考えられるので、明らかに遠くなるようであれば、当然、新設校の位置に学童保育のスペースは確保するようになります。

(主任主事)

また、そのような場合でも、通学用のスクールバスが、そこまで行く足として活用できると思います。

(委員)

確かに、授業が終わって、その場所まで児童をどうやって行かせるのか話は出ますよね。

(委員)

県内で東のほうでしたかね、学童保育までのスクールバスを出しているという話を聞いたことがあるのですが、高学年まで預かるのであれば、帰る時間、下校時間が低学年とは異なり、様々になりますよね。その時に、バスの手配をどうするのか。そういうことも問題として出てくるのではないかと思いますので。

(委員)

学童保育へ行く児童だけでなく、高学年の下校にあわせてスクールバスは、それぞれの居住地区まで色々なルートでバスを出さないといけないので、その途中で、学童保育を利用する児童は、その場所まで送り届けるということもあり得ますね。

まあ、そういうふうにスクールバスは、下校時間には何便にも分けて出す必要が出てくることは、学童保育があるからだけでなく、低学年や高学年といった下校時間のちがいで、ある程度、やむを得ないことだろうとは思っています。

(会長)

大変難しい問題だと思います。ご意見を聞いていて、検討委員会として、そのあたりまでを提言して良いものかということも、少し考えてしまいました。

(教育長)

現在の学童保育に対する要望とか、保護者の希望は強くあって、新たなやり方で対

応する必要があるのではないかということで、この言葉になっています。場所も検討していかないといけないのですが、とにかく新しい学校の位置が、まだ決まっていなくていいので。

(会長)

小学校として使用しない既存の学校用地を有効に活用してほしいということと、学童保育を作るべきだということを、別々に表す方がよいのではないのでしょうか。使用しなくなった校舎を学童保育に使うことが望ましいということに、捉えられてまいりそうなので。

(委員)

まさしくそうだと思います。広い校舎や校庭のような場所を、学童保育の職員さんが管理するって、とても大変なことだと思います。

(教育長)

既存のところだけでなく、新しい学校の中に、そういうスペースを設けてある学校もありますね。

(委員)

だから、既存のところを使うっていうことよりかは、新しい学校に併設して作るというほうが良いという気がしますけどね。

(会長)

この後の整備の中で、既存のところを使うということもありえるのかも知れませんが、提言では、学童保育の施設も新たな小学校と併せて整備をすること、また既存の場所は有効に活用されるようにというかたちで、よろしいかと思います。

他にいかがでしょうか。

(委員)

幼稚園の②ですが、「新たな幼稚園は規模のメリットも生かして」ですが、「規模のメリットを生かして」だと思います。なぜ、「も」となるのかわからない。前段の部分で、1園に再編されるメリットが書かれている。それを生かして、教育環境を充実させるということが、ここで言いたいことだと思います。

もう一点、これは2箇所使われているのですが、言葉として「喫緊の課題」というのは、行政上よく使われるのですが、これはライフラインの問題とか、そういうときにあてはまるのであって、この下の本文では「早急に対応すべき課題」という言葉があって、それが何かというと、管理職の人材不足や複式学級の解消といったことが

あてはまる。タイトルで「喫緊の課題」となっているのが、この幼稚園の直面している問題になじまない、小学校のほうでも出てきますよね。

(委員)

おっしゃるとおり、「喫緊の課題」というのを除けても、意味が通じますね。「喫緊」と「できる限り早期に」というのは、意味が重なっている。

(委員)

「喫緊の課題」というのが、災害が起きたときの対応であるとか、ライフラインの確保、そういうことに使われる言葉のように思います。

(会長)

29ページと32ページから、その文言を除きたいと思います。ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

(委員)

全体的なのですが、平成を西暦にしてはだめですかね。

(課長)

当初、骨子案のときは、年号と西暦と両方あって、統一したと記憶しています。

(委員)

平成は30年までというのも決まりましたよね。

(会長)

そういう意味でも、西暦を主体にしたほうが良いのではないかというご意見と伺いますが。

(委員)

西暦のほうがわかりやすいですが、行政は一般的に元号で、変わることも決まったのですが、他のこういった計画書や文書では、どういった表記にしているかということとの整合性も取るべきです。

(会長)

もし、対応するとなれば、併記まで可能でしょうか。元号主体で、西暦をカッコで併記する。この提言の「〇〇年代」とかいう部分は、西暦のほうがあてはまるでしょ

う。

(教育長)

会長のおっしゃるように、西暦を併記したいと思います。大体の文書は、行政の場合、平成〇年というものが多いからです。

(会長)

大学の研究論文は、西暦なのですよね。元号のほうを使う場合、逆にカッコで書くという。元号で書くなという指導をしています。

直すとなると、表の中とかグラフとか、大変多く出てきますが、併記のほうの方がわかりやすくなると思います。

(委員)

決まっておったとしても「元号が変わるので、この報告書は西暦にしました」ということは言いにくいですからね。

(教育長)

学校とか、教育現場でも「平成〇年」というほうを使っているしね。

(会長)

他はよろしいでしょうか。

(委員)

後になって気がついて申し訳ないのですが、1ページの園児数の推移などは、この検討委員会が始まった平成28年度の数字を現状として使っていますが、それ以降の箇所は29年度の数字を使っています。これは、29年度に直したほうが良いと思いますね。現状と過去や将来の比較をするところで、平成28年の数字を現状で使うと、この報告書は平成30年3月に出されますので、直近の数字の方がなじみますね。なぜ、ここだけ1年古い数字を使うのかと言われてしまいそうで。

(教育長)

ここの数字を変えるということですね。

(委員)

1年ですので、そう大きくは変わらないと思います。グラフとかにも全然、影響がないと思いますので。

(会長)

ありがとうございます。13ページの小学校のほうも、同じようになるかと思いません。それでは、他にないようでしたら、次の議題 副題の検討 に移りたいと思います。

■ 事務局説明

(会長)

ありがとうございます。先回、皆さまにご意見をいただいた上で、事務局で検討いただくという結論になっておったと思います。いかがでしょうか。では、「将来にわたって たどつの子どもたちがともに育つ教育環境を確保するために」という副題を、検討委員会として決定したいと思います。

それでは、その他ということで、検討委員会後の流れについて、事務局より説明をいただきます。

■ 事務局説明

(会長)

では、何かご意見ございましたら、お願いします。

(委員)

すぐ基本計画にかかるのは、幼稚園だけですね。そこは、正確にしておいた方がよい。

(主任主事)

6月の議会終了後に取り掛かるのが、幼稚園の基本計画で、そこで、どの場所に幼稚園を整備するかということを探っていきます。小学校は、その後ということで、次年度中ではないということをご理解いただければと思います。

(委員)

6月の議会で、基本方針を報告して、基本計画に取り掛かるわけで、そこで即時に基本計画が立つわけではない。基本計画に取り掛かっていくということですよ。基本計画がある程度、できた後に施設の設計などを進めていくという。基本計画の中身は、場所をどこにするかということも含めて作って言いかなければならないですね。

(会長)

質問は、他にありませんでしょうか。そうしますと、次回ですが、検討はこれで終わ

りということになりますでしょうか。

(委員)

いえ、今日いただいたご意見を集約して、かなりのボリュームがありますし、まだ「て・に・を・は」とか、いろいろなものを確認していただくということがあると思います。そのうえで、会長さんから教育長さんに答申をいただくということで。

(教育長)

それは、あと一回の中で、その2つ両方をするということですか。

(委員)

「この部分は前回の議論を踏まえて修正をしました、最終はこれです」という確認作業は要りますよね。

(教育長)

その後に、答申をお渡しいただくということですか。

(委員)

委員の皆さんがおられる場であるのが良いと思います。かたちとしては、答申があったということで、それをする必要はあります。事後修正とかは、会長さんに報告し、基本的な内容に関わらないものについては、会長さんのご了解をいただくということで、修正すべき点が出てきたら、それで良いと思います。

(教育長)

次回も早く、修正したものを皆さまにお送りしたいと思います。

(会長)

では、日程ですが。

(課長補佐)

では、次回の日程ですが、3月8日でいかがでしょうか。

(会長)

では、皆さんよろしいようですので、3月8日していただきたいと思います。本日も、ご審議ありがとうございました。事務局にお返しします。

(課長補佐)

本日も、ご多用の中、お集まりいただきありがとうございました。これにて、第10回教育課題検討委員会を終了したいと思います。

以上、散会